



野城 智也 (YASHIRO Tomonari)

東京大学生産技術研究所 教授

東京大学工学部建築学科卒業、
東京大学大学院工学系研究科 博士課程修了。
工学博士。

建設省建築研究所研究員、同主任研究員、武蔵工業大学建築学科助教授、東京大学大学院工学系研究科社会基盤工学専攻助教授、東京大学生産技術研究所助教授を経て同教授（2007 年から 2009 年まで東京大学生産技術研究所副所長、2009 年 4 月から 2012 年 3 月まで同研究所長）。2013 年 4 月から現職。

サステナブル建築に関するパイオニアの一人で、2005 年に東京で開かれたサステナブル建築世界大会 (SB05) の Academic Secretariat を務めた。2006 年には、「持続可能性の向上に資する建築生産のあり方に関する研究」で日本建築学会論文賞を受賞。2002 年以来、サステナブル建築に関する国際規格グループ (ISO/TC59/SC17/W4) で Covenor を務めている。1990 年代までは、課題を明らかにする分析的研究が中心であったが、今世紀にはいつて課題解決型の研究にかじをきっている。産官学のプロジェクトでリーダーをつとめながら、既存建築の再生活用のためのインフィル動産化、バイオマス資源活用のためのロジスティックスシステムの開発、リアルタイムモニタリングによるエネルギーマネジメントシステム、IC タグなどを使ったライフサイクル・トレーサビリティ・システムなど様々な分野横断統合型ビジネスモデルを提案・実装してきた。また、大丸有地区環境ビジョンづくりなど、企業グループなどのタウンマネジメントの実践も支援している。政策への寄与も多岐にわたり、例えば、東京都が実施している建築物環境計画書制度や、政府による 200 年住宅構想にとりあげられた住宅履歴書制度は野城の提案が反映されたものである。学内では建築専攻で教鞭をとるほか、技術経営戦略学専攻では「イノベーションマネジメント」「技術開発組織論」などの授業を担当している。

主な著書に『住宅にも履歴書の時代—住宅履歴情報のある家が当たり前になる』（大成出版社、2009）、『実践のための技術倫理：責任あるコーポレートガバナンスのために』（共著、東大出版会）、『サービスプロバイダー 都市再生の新産業論』（彰国社）、『サステナブル建築の政策デザイン』共著（慶応義塾大学出版会）、『都市この小さな惑星の』共訳（鹿島出版会）などがある。